

## 東北地方太平洋沖地震を何故想定できなかったのかーこれからの地震学にむけた問題点の洗い出しー

### Why we did not consider the occurrence of M9 earthquake along the Japan trench?

堀 高峰<sup>1\*</sup>, 八木 勇治<sup>2</sup>, 松澤 暢<sup>3</sup>

HORI, Takane<sup>1\*</sup>, YAGI, Yuji<sup>2</sup>, MATSUZAWA, Toru<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 地震 LP・海洋研究開発機構, <sup>2</sup> 筑波大・生命環境, <sup>3</sup> 地震噴火予知観測センター・東北大

<sup>1</sup>SeismLP, JAMSTEC, <sup>2</sup>Tsukuba Univ., <sup>3</sup>Tohoku Univ.

東北地方太平洋沖地震のような M9 クラスの巨大地震やそれに伴う大規模な津波が日本海溝沿いで発生する可能性について、なぜ事前に科学的な検討がほとんどなされなかったのか？これまでの地震学のどのようなところに問題があったのか？今後の地震学を、どのような方向に発展させていくべきか？このような疑問について、科学的側面（何をどのような切り口で研究するかという観点）だけでなく、どのような体制で研究を行うかも含めて議論することを目的として、表題のような問題提起を行うとともに、学会員を対象としたアンケートやシンポジウムでの講演を依頼した。アンケートや質疑応答では、問題提起の仕方そのものについて疑問や意見が寄せられ、そのことの結果としてシンポジウムでは十分に上記のような議論ができなかった側面がある。そこで本講演では、できるだけ当初我々が目的とした上記の観点を軸に、アンケート結果とシンポジウムでの講演ならびに質疑応答、さらに本意見論文集での関連する意見を整理し、そこから浮かび上がってきた今後の課題についてまとめることを試みる。